

# 看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂版 の活用に向けて

鎌倉 やよい

看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に向けた連絡調整委員会委員長  
一般社団法人日本看護系大学協議会(JANPU)常任理事

# CONTENT

- 看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に向けた連絡調整委員会における審議の経過と改訂版の特徴
- 看護学教育モデル・コア・カリキュラム令和6年度改訂版の概要
- コンピテンシー基盤型カリキュラムの科目設計
  - 各大学のDPに第1階層「基本的な資質・能力」又は第2階層「資質・能力」を紐づける。
  - 科目に第3・4階層「資質・能力」を紐づける。
  - マイルストーン（各領域実習前時点・卒業時点）での到達度を念頭に、科目を配置してカリキュラムを構築する。

# CONTENT

- 看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に向けた連絡調整委員会における審議の経過と改訂版の特徴
- 看護学教育モデル・コア・カリキュラム令和6年度改訂版の概要
- コンピテンシー基盤型カリキュラム科目設計

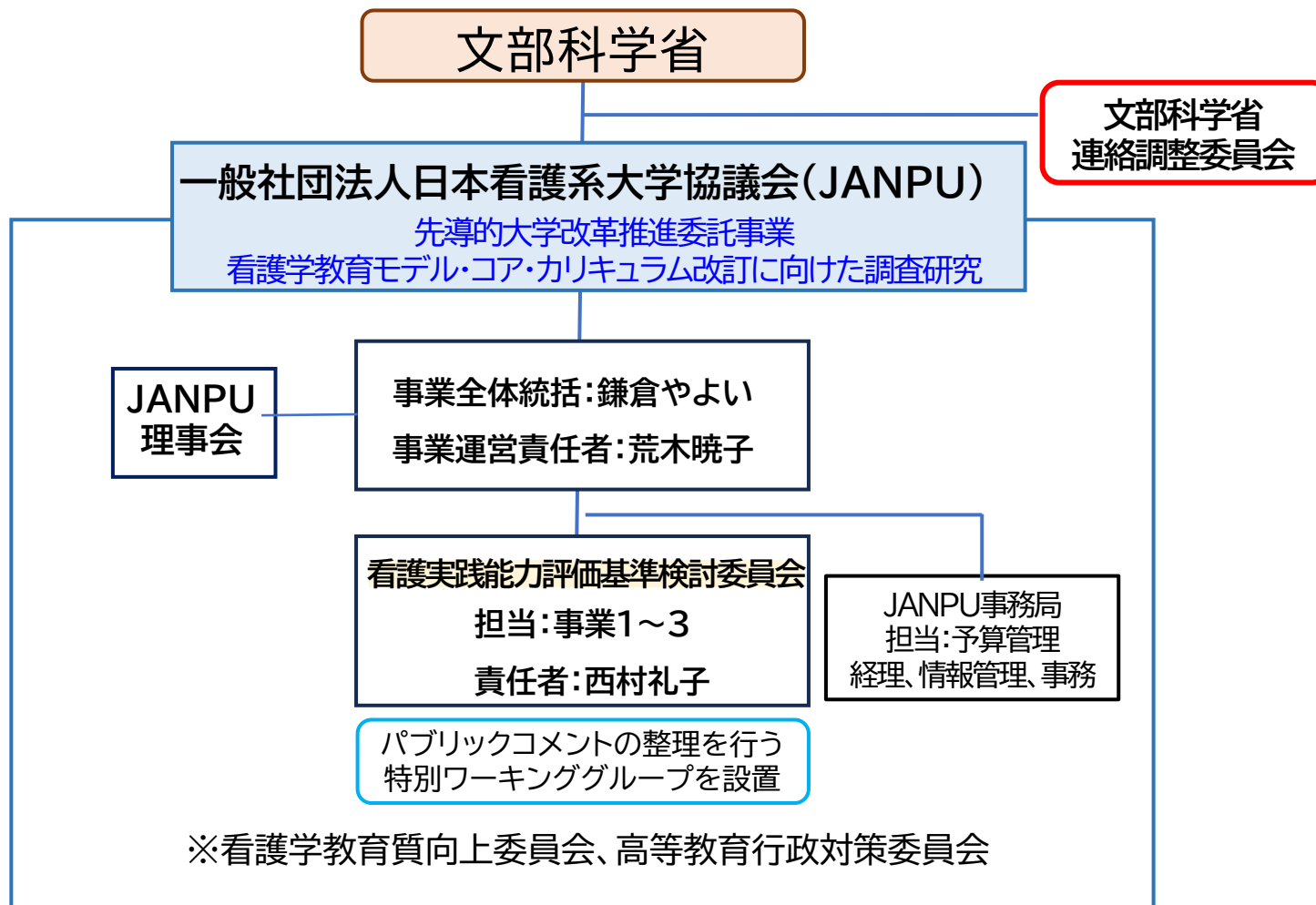
# 看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に関する連絡調整委員会 委員名簿（令和7年1月29日現在）

秋山 正子	(株)ケアーズ代表取締役 白十字訪問看護ステーション統括所長・認定NPO法人マギーズ東京 センター長	(令和5年7月～)
阿真 京子	特定非営利活動法人 日本医療政策機構フェロー	(令和5年7月～)
江澤 和彦	公益社団法人 日本医師会 常任理事	(令和6年6月～)
叶谷 由佳	横浜市立大学 医学部看護学科 教授	(令和5年7月～)
○鎌倉 やよい	一般社団法人 日本看護系大学協議会 常任理事	(令和5年7月～)
釜萯 敏	前 公益社団法人 日本医師会 常任理事	(令和5年7月～令和6年5月)
諏訪 さゆり	千葉大学大学院 看護学研究院長・教授	(令和5年7月～)
臺 有桂	神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部看護学科 教授	(令和5年7月～)
高田 早苗	前 一般社団法人日本看護学教育評価機構 代表理事	(令和5年7月～令和6年8月)
武村 雪絵	東京大学医学部附属病院 病院長補佐・看護部長	(令和5年7月～)
田母神 裕美	公益社団法人 日本看護協会 常任理事	(令和5年7月～)
錦織 宏	名古屋大学総合医学教育講座 教授	(令和5年7月～)
馬場 秀夫	一般社団法人化学及血清療法研究所	(令和5年7月～)
菱沼 典子	一般社団法人日本看護学教育評価機構 代表理事	(令和6年9月～)
堀内 成子	聖路加国際大学 学長	(令和5年7月～)
(オブザーバー)	習田 由美子 厚生労働省医政局看護課長	(令和5年7月～)

計15名 ○委員長

\*50音順 敬称略

# 「看護学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂に向けた調査研究」実施体制



担当	業務担当責任者
事業全体統括	鎌倉 やよい (JANPU常任理事)
事業運営責任者	荒木 暁子 (JANPU看護実践能力評価基準検討委員会委員長、東邦大学)
事業責任者	西村 礼子 (JANPU看護実践能力評価基準検討委員会副委員長、東京医療保健大学)

# JANPU看護実践能力評価基準検討委員会

役職	氏名	所属	専門分野
委員長	荒木 暁子	東邦大学	小児看護学、看護管理学
副委員長	西村 礼子	東京医療保健大学	基礎看護学、看護教育学
委員	佐藤 聖一	国際医療福祉大学	基礎看護学、看護教育学、看護倫理学
委員	福田 友秀	武蔵野大学	クリティカルケア看護学
委員	野島 敬祐	京都橘大学	シミュレーション教育学、クリティカルケア看護学
委員※	神澤 尚利	東京都立大学	精神看護学
委員※	川村 崇郎	防衛医科大学校	高齢者看護学、在宅看護
委員※	西垣 昌和	国際医療福祉大学	遺伝カウンセリング学、臨床遺伝学、遺伝看護学、保健学
委員※	増澤 祐子	聖路加国際大学	ウイメンズヘルス・助産学
委員※	横田 慎一郎	千葉大学	看護情報学、医療情報学、看護管理学

# JANPU看護学教育質向上委員会

役職	氏名	所属	専門分野
委員長	叶谷 由佳	横浜市立大学	老年看護学・在宅看護学
副委員長	吉沢 豊子	関西国際大学	ウイメンズヘルス看護学
委員	斉藤 しのぶ	千葉大学	看護理論実装学、看護技術学
委員	高橋 良幸	東邦大学	慢性疾患看護
委員	西村 礼子	東京医療保健大学	基礎看護学・看護教育学
委員	益田 美津美	聖徳大学	クリティカルケア看護学
委員	宮本 千津子	東京医療保健大学	看護マネジメント学
委員	森山 美知子	広島大学	成人看護開発学
協力者	井上 真帆	横浜市立大学	老年看護学

# 看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に向けた連絡調整委員会での審議経過

- 文部科学省による「令和5年度先導的<sup>①</sup>大学改革推進委託事業：看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に向けた調査研究」を入札公募（2023年・令和5年5月23日、入札書期限6月19日、開札7月6日）。
- **日本看護系大学協議会(JANPU)**は「先導的<sup>①</sup>大学改革推進委託事業・技術提案書」を応募（2023年・令和5年6月19日）、落札（7月6日）。
- **第1回連絡調整委員会** 2023(令和5)年7月19日
  - JANPU調査チームによる「先導的<sup>①</sup>大学改革推進委託事業・技術提案書」の説明
  - 看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂方針の確認
- **第2回連絡調整委員会** 2024(令和6)年2月1日
  - 看護学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂に向けた調査研究の経過報告(事業1・事業2)
  - 事業1:改訂に向けての社会背景として、コンテンツ基盤型教育からコンピテンシー基盤型教育への転換を求める大きな変化が起こってきたことを中心に重要な報告書・文献等を検討した結果が報告された。
  - 事業2:AIを用いたインタビュー調査(4回)を行い、看護師に求められる「資質・能力」を、まず広く看護師に回答を求め、次には看護管理者・CNS・看護系教員、最終的には各専門分野の団体からの推薦された有識者から回答を得た。
    - 看護学教育モデル・コア・カリキュラム【資質・能力】素案の提出(第1階層～第4階層)
    - 各種文書(H29年度看護学教育モデル・コア・カリキュラム、JANPU看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標、国家試験出題基準、保健師助産師看護師学校養成所指定規則、新人看護職員研修ガイドライン)との整合性の確認
    - 資質・能力の構成概念妥当性検証
- 連絡調整委員会の意見⇒フィードバック検証(各団体からの推薦による有識者からの意見聴取・ワーキンググループによる検証)
- **第3回連絡調整委員会** 2024(令和6)年6月20日
  - 令和6年度看護学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂案(資質・能力、学修目標、到達度、教育内容、ブループリント)
  - 委員会としての意見提出
- **第4回連絡調整委員会** 2024(令和6)年8月6日
  - 令和6年度看護学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂案の修正案【本文】、【資質・能力】、【教育内容】を審議
- パブリックコメント・学会等からの意見提出⇒特別ワーキンググループ(各団体からの推薦による有識者と連絡調整委員会からの推薦者)による検討
- **第5回連絡調整委員会** 2024(令和6)年12月25日
  - パブリックコメント等に基づき内容が修正され、信頼性・妥当性、識別力等が最終確認された「令和6年度看護学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂案【本文】、【資質・能力】、【教育内容】」を審議。各意見に対する判断について回答が示された。
  - 大多数から承認されたが、1名の委員からもう1度確認したいとの意見があり、継続審議とした。
- **第6回連絡調整委員会** 2025(令和7)年1月29日
  - 「令和6年度看護学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂案【本文】、【資質・能力】、【教育内容】」が承認された。

# 看護学教育モデル・コア・カリキュラム令和6年度改訂版の特徴

- JANPUが「看護学教育・モデル・コア・カリキュラムの改訂に向けた調査研究」を実施し、調査結果に基づく「看護学教育・モデル・コア・カリキュラム改訂(案)」を作成した。
- JANPUはAIを用いたインタビュー調査を行い、新人看護師に求められる資質・能力のデータを広く収集し分類した。さらに、各学会等団体が推薦する有識者27名による検討会議によって、資質・能力は繰り返し精選された。
- 連絡調整委員会はJANPU調査チームによる「看護学教育・モデル・コア・カリキュラム改訂(案)」を審議した。
- H29年度看護学教育モデル・コア・カリキュラム、JANPU看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標、国家試験出題基準、保健師助産師看護師学校養成所指定規則、新人看護職員研修ガイドラインと整合していることが確認された。
- 「資質・能力」、「教育内容」は看護教育の各種資料のテキストデータとの対応が確認された。
- 第4階層756の各資質・能力は識別力が確認された。

# CONTENT

- 看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に向けた連絡調整員会における審議の経過と改訂版の特徴
- 看護学教育モデル・コア・カリキュラム令和6年度改訂版の概要
- コンピテンシー基盤型カリキュラムの科目設計

# 看護学教育モデル・コア・カリキュラム 令和6年度改訂版 概要

文部科学省看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂のための連絡調整委員会(令和7年3月17日)

## コンピテンシー基盤型教育への潮流

- 2040年に向けて、予測不可能な時代を生きる人材像として、普遍的な知識・理解と汎用的技能を文理横断的に身に付け、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、論理的な思考力をもって社会を改善していく資質を有する人材が示された。
- DP,CP,APに基づく学修目標の具体化、カリキュラムの編成・実施、学修成果・教育成果の把握・可視化、情報公表が求められた。
- 大学は、学修者本位の教育への転換によって、アウトカム評価に基づき卒業時に身に付ける能力の保証が求められた。

看護学士課程の「教育の質の保証」として、卒業時点で学生が身に付けた能力を可視化し、保証することが求められている。  
**コンピテンシー基盤型カリキュラムに基づくアウトカム評価が求められ、コンピテンシー基盤型教育への転換が必要である。**

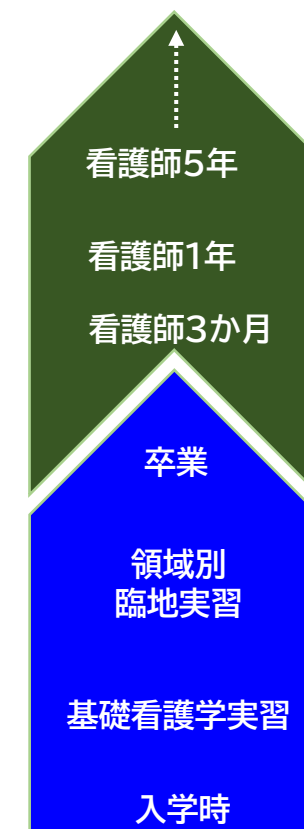
### 【本文】【資質・能力】【教育内容】から構成

- 【本文】では、改訂の背景、臨地実習における質保証等の考え方、概要、基本的な資質・能力、全体構造、学修評価・学修方略等を説明した。
- 【資質・能力】には、第1～4階層の資質・能力、学修目標、到達度、指導体制と委託の程度、ブループリントが含まれる。
- 【教育内容】には、1)症候別看護(アセスメントの視点・観察・看護実践)、2)基本的看護技術248項目、3)身体機能別フィジカルイグザミネーション、4)構造と機能、症状・徴候、疾患、検査治療、5)主な臨床・画像検査、が含まれる。
- 【資質・能力】の構造
  - 入学から卒業後に至る連続線上で看護師の資質・能力は成長することを前提とし、**卒業直後の新人看護師に必要な資質・能力を卒業時到達度に設定した。**
  - コンピテンシーと「資質・能力」を同義とし、第1～4階層を「資質・能力」とする。
  - 基本的な資質・能力(第1階層)として11の領域が示された。
  - 各「基本的な資質・能力」に含まれる資質・能力を第2階層に明示し、同様に第3階層、第4階層に資質・能力を明示した。
  - 各第2階層には「資質・能力」と共に「学修目標」を記した。
  - 第4階層の資質・能力ごとに「到達度(卒業時点と各領域実習前時点)」、「臨地実習時点の指導体制と委託の程度」を示した。
  - 「ブループリント」には資質・能力全体に対する重みづけの数値を例示した。

看護学教育モデル・コア・カリキュラムの構成

### 大学から臨床へ連続する評価の視点

入学時から看護師として必要な資質・能力を導く構造



卒業直後の新人看護師に必要な資質・能力を卒業時点の資質・能力として、第4階層に756項目を設定した。

卒業時点  
到達度評価

各領域実習前  
時点  
到達度評価

コンピテンシー基盤型カリキュラムを構築するために  
看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂版が活用されることを期待する。

# コンピテンシー基盤型教育への潮流

- 2040年に向けて、予測不可能な時代を生きる人材像として、普遍的な知識・理解と汎用的技能を文理横断的に身に付け、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、論理的な思考力をもって社会を改善していく資質を有する人材が示された。
- DP,CP,APに基づく学修目標の具体化、カリキュラムの編成・実施、学修成果・教育成果の把握・可視化、情報公表が求められた。
- 大学は、学修者本位の教育への転換によって、アウトカム評価に基づき卒業時に身に付ける能力の保証が求められた。

看護学士課程の「教育の質の保証」として、卒業時点に学生が身に付けた能力を可視化し、保証することが求められている。

**コンピテンシー基盤型カリキュラムに基づくアウトカム評価が求められ、コンピテンシー基盤型教育への転換が必要である。**

# 我が国の「知の総和」向上の未来像：高等教育システムの再構築（答申）

## 中央教育審議会 2025年2月21日（文部科学省）

- 我が国の「知の総和」の向上  
目指す未来像の実現のためには「知の総和」（数×能力）を向上することが必須  
① 質の向上 ②規模の適正化 ③アクセスの確保



### ①教育研究の「質」の更なる高度化

- 学修者本位の教育の更なる推進
  - ・ 「出口における質保証」の促進
  - ・ 教育の質を評価する新たな評価制度（学部・研究科別）へ移行
- 情報公表の推進
  - ・ 大学間比較できる新たなデータプラットフォーム：「Uni-Map（ユニマップ）」（仮称）を構築



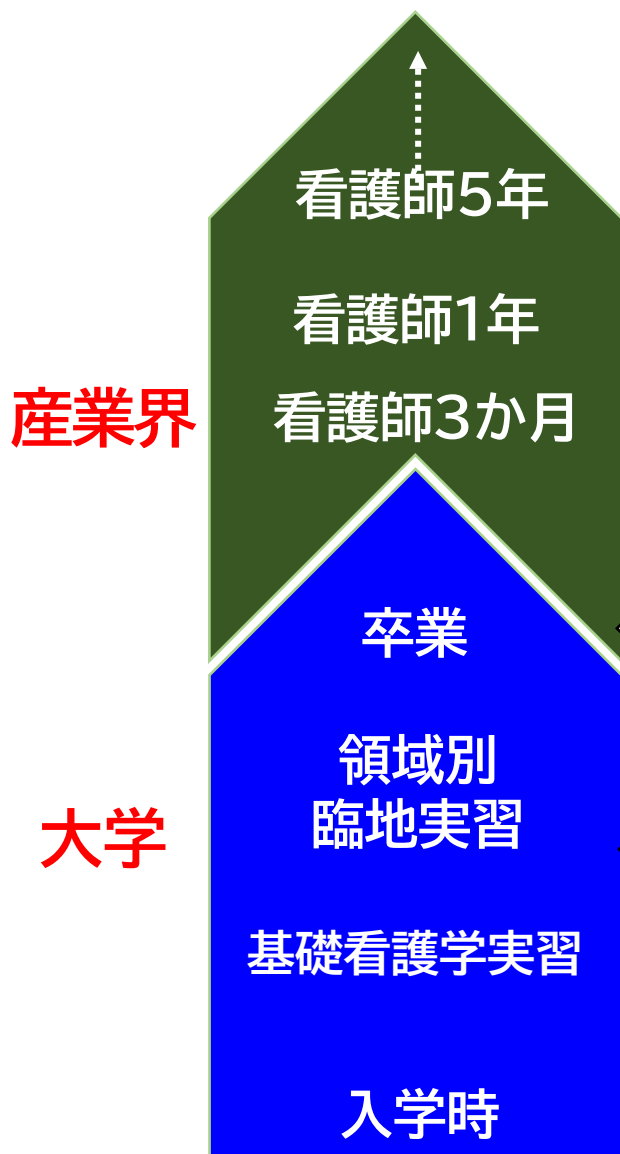
### ②高等教育全体の「規模」の適正化

- コンピテンシー基盤型カリキュラムに基づくアウトカム能力評価が必要
- ディプロマポリシー各項目のルーブリック評価では、質保証として不十分
- 高等教育機関全体の規模の適正化の推進
  - ・ 再編・統合の推進
  - ・ 縮小への支援
  - ・ 撤退への支援



# 大学から臨床へ連続する評価の視点

入学時から看護師として必要な資質・能力を導く構造



➤ 大学入学時から卒業時、卒業後に看護師として「資質・能力」を成長させる「1本の評価軸」の線上でとらえることが重要

➤ 大学入学時から、看護師として必要な資質・能力を導く構造

➤ 卒業直後の新人看護師に必要な資質・能力を卒業時到達度に設定

卒業時点  
到達度評価

➤ 卒業時点の資質・能力として第4階層に756項目を設定

各領域実習時点  
到達度評価

➤ 資質・能力ごとに到達度を設定

## 【本文】【資質・能力】【教育内容】から構成

- 【本文】では、改訂の背景、臨地実習における質保証等の考え方、概要、基本的な資質・能力、全体構造、学修評価・学修方略等を説明した。
- 【資質・能力】には、第1～4階層の資質・能力、学修目標、到達度、指導体制と委託の程度、ブループリントが含まれる。
- 【教育内容】には、1)症候別看護(アセスメントの視点・観察・看護実践)、2)基本的看護技術248項目、3)身体機能別フィジカルイグザミネーション、4)構造と機能、症状・徴候、疾患、検査治療、5)主な臨床・画像検査、が含まれる。
- 【資質・能力】の構造
  - 入学から卒業後に至る連続線上で看護師の資質・能力は成長することを前提とし、**卒業直後の新人看護師に必要な資質・能力を卒業時到達度に設定**した。
  - コンピテンシーと「資質・能力」を同義とし、第1～4階層を「資質・能力」とする。
  - 基本的な資質・能力(第1階層)として11の領域が示された。
  - 各「基本的な資質・能力」に含まれる資質・能力を第2階層に明示し、同様に第3階層、第4階層に資質・能力を明示した。
  - 各第2階層には「資質・能力」と共に「学修目標」を記した。
  - 第4階層の資質・能力ごとに「到達度(卒業時点と各領域実習前時点)」、「臨地実習時点の指導体制と委託の程度」を示した。
  - 「ブループリント」には資質・能力全体に対する重みづけの数値を例示した。

**コンピテンシー基盤型カリキュラム**を構築するために  
看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂版が活用されることを期待する。

## 【資質・能力】 基本的な資質・能力(11)と第2・3・4階層に含まれる資質・能力数と記号の例示

- 各基本的な資質・能力を構成する資質・能力が第2階層に、第2階層を構成する資質・能力が第3階層、同様に第4階層に示された。
- 第2階層には学修目標を示した。第4階層の具体的な資質・能力は、知識・スキル・態度・価値観を統合し、思考力・判断力・表現力を用いて可視化されるパフォーマンスとして示した。
- 各資質・能力は、GE-01(第2階層)、GE-01-01(第3階層)、GE-01-01-01(第4階層)のように、全て記号化された。

基本的な資質・能力(第1階層)	第2階層 資質・能力数	第3階層 資質・能力数	第4階層 資質・能力数
GE: 対象を総合的・全人的に捉える能力 (Generalism)	GE-01 ~ 7	GE-01-01 ~ 19	GE-01-01-01 ~ 77
PR: プロフェッショナリズム (Professionalism)	PR-01 ~ 7	PR-01-01 ~ 17	PR-01-01-01 ~ 51
LL: 生涯学習能力 (Lifelong Learning)	LL-01 ~ 5	LL-01-01 ~ 10	LL-01-01-01 ~ 30
SO: 地域社会における健康支援 (Healthcare in Society)	SO-01 ~ 8	SO-01-01 ~ 20	SO-01-01-01 ~ 92
QS: ケアの質と安全管理 (Quality and Safety)	QS-01 ~ 6	QS-01-01 ~ 22	SO-01-01-01 ~ 57
IP: 多職種連携能力 (Interprofessional Collaboration)	IP-01 ~ 7	IP-01-01 ~ 16	IP-01-01-01 ~ 33
RE: 科学的探究能力 (Research)	RE-01 ~ 3	RE-01-01 ~ 04	RE-01-01-01 ~ 23
CS: 患者ケアのための臨床スキル (Clinical Skill)	CS-01 ~ 7	CS-01-01 ~ 40	CS-01-01-01 ~ 163
CM: コミュニケーション能力 (Communication)	CM-01 ~ 5	CM-01-01 ~ 10	CM-01-01-01 ~ 48
IT: 情報・科学技術を活かす能力 (Utilization of Information Technology)	IT-01 ~ 5	IT-01-01 ~ 10	IT-01-01-01 ~ 33
PS: 専門知識に基づいた問題解決能力 (Problem Solving)	PS-01 ~ 11	PS-01-01 ~ 77	PS-01-01-01 ~ 149
合計	71	245	756

## 【資質・能力】 資質・能力の例示 第1階層 GE(Generalism):対象を総合的・全人的に捉える基本的な能力

第2階層	第3階層	第4階層
GE-01 人としての対象の理解 (学修目標)	GE-01-01 人間の基本的欲求に関する概念	GE-01-01-01 個人の健康と幸福に、責任をもって関与する。 GE-01-01-02 人間の基本的欲求について理解している。 GE-01-01-03 人間は成長・成熟する存在であることを理解している。
	GE-01-02~03	GE-01-02-01~02, GE-01-03-01~03
GE-02~GE-06 中略 (学修目標)	GE-02-01~03...GE-06-01~02	GE-02-01-01~04.....中略.....GE-06-02-01~05
GE-07 家族の理解と家族看護 (学修目標)	GE-07-01 家族に関する基本的な概念	GE-07-01-01 対象者の家族構成、家族の関係性や役割を把握できる。 GE-07-01-02~03
	GE-07-02~04	GE-07-02-01~05, GE-07-03-01~07, GE-07-04-01~10

## 学修目標の例示 GE-01 人としての対象の理解 学修目標 :生涯発達し続ける人を全人的に捉え、健康状態の多様さを理解している。

- 「資質・能力」の第2階層に対応して、「学修者がどのようなことをできるようになるか」を学修目標として提示した。
- カリキュラム編成時には、資質・能力を組み合わせてコンテンツを構成する逆向き設計となる。学修目標によって、それを達成するための第2階層に紐づく第4階層までの資質・能力を確認することができ、さらにコンテンツを構成することが容易になる。

# 【資質・能力】の構造

- コンピテンシーと「資質・能力」を同義とし、第1～4階層を「資質・能力」とする。
  - ・第1階層：11領域の基本的な資質・能力
  - ・第2階層：「第1階層」に含まれる資質・能力 学修目標
  - ・第3階層：「第2階層」に含まれる資質・能力
  - ・第4階層：「第3階層」に含まれる資質・能力
- 第4階層の資質・能力ごとに「到達度（卒業時点と各領域実習前時点）」、「臨地実習時点の指導体制と委託の程度」を示した。
- 「ブループリント」には資質・能力全体に対する重みづけの数値を例示した。

## ■第1階層

- 基本的な資質・能力として、略語を2文字で表現（例：Generalism:GE）。
- 第1階層は看護師に求められる基本的な資質・能力を短文で表現。  
（例：GE 対象を総合的・全人的に捉える能力）
- 説明文(本文p20)：  
「対象を全人的・個別的・総合的にみる姿勢や態度、パーソン・センタード・ケアの考え方を基盤に、生活者としての対象と家族を支援する。」

## ■第2階層

- 各資質・能力の構成要素を複数の「名詞」で表現。  
（例：GE-03 生活者としての対象の理解）
- 学修目標：「**学修者がどのようなことができるようになるか**」を文章で表現。

## ■第3階層

- 具体的な資質・能力を「名詞」で表現  
（例：GE-03-01 生活者としての対象を取り巻く地域の理解）。

## ■第4階層

- さらに具体的な資質・能力として、**知識・スキル・態度・価値観を統合し、思考力・判断力・表現力によって可視化されるパフォーマンス**を「文」で表現。

# 基本的な資質・能力(11)と第2・3・4階層に含まれる資質・能力数と記号の例示

基本的な資質・能力(第1階層)	第2階層 資質・能力数	第3階層 資質・能力数	第4階層 資質・能力数
GE: 対象を総合的・全人的に捉える基本的能力 (Generalism)	GE-01 ~ 7	GE-01-01 ~ 19	GE-01-01-01 ~ 77
PR: プロフェッショナリズム (Professionalism)	PR-01 ~ 7	PR-01-01 ~ 17	PR-01-01-01 ~ 51
LL: 生涯学習能力 (Lifelong Learning)	LL-01 ~ 5	LL-01-01 ~ 10	LL-01-01-01 ~ 30
SO: 地域社会における健康支援 (Healthcare in Society)	SO-01 ~ 8	SO-01-01 ~ 20	SO-01-01-01 ~ 92
QS: ケアの質と安全の管理 (Quality and Safety)	QS-01 ~ 6	QS-01-01 ~ 22	SO-01-01-01 ~ 57
I P: 多職種連携能力 (Interprofessional Collaboration)	I P-01 ~ 7	I P-01-01 ~ 16	I P-01-01-01 ~ 33
RE: 科学的探究能力 (Research)	RE-01 ~ 3	RE-01-01 ~ 04	RE-01-01-01 ~ 23
CS: 患者ケアのための臨床スキル (Clinical Skill)	CS-01 ~ 7	CS-01-01 ~ 40	CS-01-01-01 ~ 163
CM: コミュニケーション能力 (Communication)	CM-01 ~ 5	CM-01-01 ~ 10	CM-01-01-01 ~ 48
I T: 情報・科学技術を活かす能力 (Utilization of Information Technology)	I T-01 ~ 5	I T-01-01 ~ 10	I T-01-01-01 ~ 33
PS: 専門知識に基づいた問題解決能力 (Problem Solving)	PS-01 ~ 11	PS-01-01 ~ 77	PS-01-01-01 ~ 149
合計	71	245	756

# 科目設計の視点からは

- 看護学教育モデル・コア・カリキュラムの【資質・能力】はコンテンツとの融合を前提にしている。
- 第2階層の「学修目標」が科目とコンピテンシーを融合する手がかりとなる。
- 第1階層のそれぞれの「基本的な資質・能力」を構成する資質・能力が第2・3・4階層に同じ記号で構造化されている。
- 第4階層の756の資質・能力は、第3階層とそこに含まれる第4階層を一括して、科目に配置することができる。
- 科目に配置された後に、授業設計において第3階層に連動する第4階層の「資質・能力」を構成する。

# 【資質・能力】 資質・能力の例示

## 第1階層 GE(Generalism) :対象を総合的・全人的に捉える基本的能力

### 第2階層

GE-01  
人としての対象の理解

【学修目標】  
生涯発達し続ける人を全人的に捉え、健康状態の多様さを理解している。

### 第3階層

GE-01-01  
人間の基本的欲求に関する概念

GE-01-02  
人間の生活行動の理解

GE-01-03  
人間の尊厳および権利

### 第4階層

GE-01-01-01  
個人の健康と幸福に、責任をもって関与する。  
GE-01-01-02  
人間の基本的欲求について理解している。  
GE-01-01-03  
人間は成長・成熟する存在であることを理解している。

GE-01-02-01  
生体リズム、活動と休息のバランス、運動習慣、睡眠パターン等、健康にとっての活動と休息の意味を説明できる。  
GE-01-02-02  
各生活行動を統合して対象者の生活を理解している。

GE-01-03-01  
人間としての尊厳および権利について理解している。

中略

GE-07  
家族の理解と家族看護

【学修目標】  
家族のライフサイクルに沿って家族システム、家族機能をアセスメントし、家族ケアを実践できる。

GE-07-01  
家族に関する基本的な概念

GE-07-02  
GE-07-03  
GE-07-04

GE-07-01-01  
対象者の家族構成、家族の関係性や役割を把握できる。  
GE-07-01-02  
GE-07-01-03

EG-07-02-01~05  
GE-07-03-01~07  
GE-07-04-01~10

## 【資質・能力】到達度(卒業時点・各領域別実習前時点)

- Millerのピラミッド(Does, Shows How, Knows How, Knowsの4段階)に基づき、卒業時点と各領域実習前時点(基礎看護学実習は修了)の到達度を示した。第4階層の資質・能力と照合することで、当該時点までに到達すべき資質・能力がわかる。
- 「理解している」と示された資質・能力は、その知識を臨地で実践に生かすことが求められている場合には、到達度として「Does」を設定した。
  - ① Does : 根拠を理解して、臨地で実施できる。
  - ② Shows How : 根拠を理解して、模擬的な環境で行動・実演できる。
  - ③ Knows How : 収集した情報を分析・解釈し、臨地への活用方法を考えられる。
  - ④ Knows : 専門職としての能力を発揮するために必要な知識がある。

## 【資質・能力】指導体制と委託の程度

- 資質・能力がEPA(Entrustable Professional Activities:委託可能な専門的活動)と連動することで、実践に生かすことが可能となるとの視点、看護師免許を有しない看護学生が臨地実習で看護行為を実施するための法的解釈の視点に基づき、以下の4つの区分で示した。
  - ① 見学(看護行為の身体的侵襲の程度等、臨地実習指導者が判断)
  - ② 看護師(臨地実習施設に所属)の直接の監督下で実施
  - ③ 教員等(看護師だが臨地実習施設に所属しない)の直接の監督下で実施
  - ④ 学生が(看護師等がすぐに対応できる状況下で)実施

## 【資質・能力】ブループリント

- インタビューデータの中で、どの資質・能力に対してどの程度言及されたかの比率を示したものを調査研究の結果として例示した。
- カリキュラム編成時に資質・能力の重みづけとして機能する数値である。ただし、この数値は標準化には至っていないことに留意して、各大学において自主的、自律的に重みづけを決定していただきたい。

# 【教育内容】

- 看護師として求められる基本的な資質・能力を身につけるうえで、必要な教育内容となる知識やスキルを示した。

## 表1 症候別看護(アセスメントの視点・観察・看護実践): (表1-1~25)

意識障害、頭痛、呼吸困難、胸痛、腹痛・腹部膨満、嘔気・嘔吐、下痢、便秘、睡眠障害、感覚の異常(視覚・皮膚)、運動の異常(麻痺・失調)、摂食嚥下障害、ショック、体温異常(発熱・低体温)、脱水、黄疸、咳嗽・喀痰、吐血・喀血、チアノーゼ、不整脈、下血、排尿障害(無尿・乏尿・頻尿)、浮腫、貧血、けいれん

## 表2 基本的看護技術(247項目):

日常生活ケア(124項目)、家族支援(14項目)、医療的ケア(治療に伴うケア)(89項目)、職種・組織間連携(14項目)、死者および遺族に対するケア(6項目)

## 表3 身体機能別フィジカルイグザミネーション(成人・小児)

## 表4 構造と機能、症状・徴候、疾患、検査、治療: (表4-1~16)

呼吸器系、循環器系、消化器系、内分泌代謝系、造血器系、感染症系、免疫系、脳神経系、腎・泌尿器系、運動器系、生殖器系、皮膚系、感覚器系、精神系、妊娠と分娩、遺伝性疾患

## 表5 主な臨床・画像検査

# CONTENT

- 看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に向けた連絡調整員会における審議の経過と改訂版の特徴
- 看護学教育モデル・コア・カリキュラム令和6年度改訂版の概要
- コンピテンシー基盤型カリキュラムの科目設計
  - 各大学のDPに第1階層「基本的な資質・能力」又は第2階層「資質・能力」を紐づける。
  - 科目に第3・4階層「資質・能力」を紐づける。
  - マイルストーン（各領域実習前時点・卒業時点）の到達度を念頭に、科目を配置してカリキュラムを構築する。

## 各大学のDPに第1階層「基本的な資質・能力」又は第2階層「資質・能力」を紐づける

- 各大学の現在のディプロマポリシー(DP)に、11領域すべての「基本的な資質・能力(第1階層)」を紐づける。または、第2階層「資質・能力」を紐づけることも良い。
- 紐づけることができれば、そのDPを達成するために必要な資質・能力が第2階層、第3階層、第4階層の「資質・能力」として示される。
- DPに対応しない基本的な資質・能力がある場合、DPを調整して対応させる。
- 11の基本的な資質・能力がすべて対応したが、対応しないDPがある場合、大学の独創的なDPである。

# コンピテンシー基盤型カリキュラムの設計①

- A大学のDP1～5と看護学教育コアカリの第1階層の基本的な資質・能力(11)を照合し、各DPに対応する「資質・能力」を確認する。
- 対応しない「資質・能力」があるならば、DPを検討して調整する。

DP	各DPに対応する第1階層の資質・能力
DP1	GE:対象を総合的・全人的に捉える基本的能力(Generalism)
DP2	CS:患者ケアのための臨床スキル(Clinical Skill) PS:専門知識に基づいた問題解決能力(Problem Solving)
DP3	IP:多職種連携能力(Interprofessional Collaboration) CM:コミュニケーション能力(Communication)
DP4	PR:プロフェッショナリズム(Professionalism) LL:生涯学習能力(Lifelong Learning)
DP5	IT:情報・科学技術を活かす能力(Utilization of Information Technology) RE:科学的探究能力(Research) QS:ケアの質と安全の管理(Quality and Safety) SO:地域社会における健康支援(Healthcare in Society)

- 各DPと第1階層の資質・能力を対応させることができれば、そこに含まれる第2・3・4階層の資質・能力が紐づけできる。

## コンピテンシー基盤型カリキュラムの設計②

- B大学のDP1～5と看護学教育コアカリの第2階層資質・能力(71)とを照合し、各DPに対応する「資質・能力」を確認する。
- 対応しない「資質・能力」があるならば、DPを検討して調整する。

DP	各DPに対応する第2階層の資質・能力	
DP1	GE-01～07	CM-01
DP2	PR-01～07	LL-01～05
DP3	PS-01～11	CM-02・03・04
	SO-06	QS-01・02・03
DP4	SO-01～05・07・08	IP-01～07
	CM-05	QS-05・06
DP5	RE-01～03	IT-01～05

- 各DPと第2階層の資質・能力を対応させることができれば、そこに連動する第3階層と第4階層の資質・能力が紐づけされる。
- 建学の精神や教育理念から導かれたDPに基づき、基本的な資質・能力と第2階層の資質・能力、さらには第3・4階層の「資質・能力」を構造化できたといえる。

# CONTENT

- 看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に向けた連絡調整員会における審議の経過と改訂版の特徴
- 看護学教育モデル・コア・カリキュラム令和6年度改訂版の概要
- コンピテンシー基盤型カリキュラムの科目設計**
  - 各大学のDPIに第1階層「基本的な資質・能力」又は第2階層「資質・能力」を紐づける。
  - 科目に第3・4階層「資質・能力」を紐づける。
  - マイルストーン（各領域実習前時点・卒業時点）の到達度を念頭に、科目を配置してカリキュラムを構築する。

# コンピテンシー基盤型カリキュラムによる教育の質の保証

- DPに対応する第1階層の基本的な資質・能力あるいは第2階層の資質・能力が明示され、DPに対応する科目に第3・4階層の資質・能力を位置付けることによって、コンピテンシー基盤型カリキュラムとしての骨格ができたといえる。
- 各科目に包含される資質・能力が明示され、第4階層の資質・能力(756)がすべて科目に連動していることである。
- カリキュラムのスコープ(教育課程を編成するとき、どういった教育内容を選択するのかという学習の範囲あるいは領域)とシークエンス(カリキュラム編成時の順序性)によりCPを確定して、カリキュラムを編成する。

# 【資質・能力】 資質・能力の例示

## 第1階層 GE(Generalism) :対象を総合的・全人的に捉える基本的能力

### 第2階層

GE-01  
人としての対象の理解

【学修目標】  
生涯発達し続ける人を全人的に捉え、健康状態の多様さを理解している。

### 第3階層

GE-01-01  
人間の基本的欲求に関する概念

GE-01-02  
人間の生活行動の理解

GE-01-03  
人間の尊厳および権利

### 第4階層

GE-01-01-01  
個人の健康と幸福に、責任をもって関与する。

GE-01-01-02  
人間の基本的欲求について理解している。

GE-01-01-03  
人間は成長・成熟する存在であることを理解している。

GE-01-02-01  
生体リズム、活動と休息のバランス、運動習慣、睡眠パターン等、健康にとっての活動と休息の意味を説明できる。

GE-01-02-02  
各生活行動を統合して対象者の生活を理解している。

GE-01-03-01  
人間としての尊厳および権利について理解している。

中略

GE-07  
家族の理解と家族看護

【学修目標】  
家族のライフサイクルに沿って家族システム、家族機能をアセスメントし、家族ケアを実践できる。

GE-07-01  
家族に関する基本的な概念

GE-07-02

GE-07-03

GE-07-04

GE-07-01-01  
対象者の家族構成、家族の関係性や役割を把握できる。

GE-07-01-02

GE-07-01-03

EG-07-02-01~05

GE-07-03-01~07

GE-07-04-01~10

# 第3・4階層の資質・能力に基づく科目 の設定

- 第2階層の学修目標を手掛かりに、第3・4階層の資質・能力に対応する科目を構成し、教育課程編成・実施の方針(CP)を確定する。
- 例:CS(患者ケアのための臨床スキル)

学修目標:専門的知識に基づく看護過程を理解し、対象の身体・心理・社会的ニーズを分析し、対象の目標・アウトカムの設定・計画立案・実施・評価・改善ができる。

第2階層	第3階層		第4階層
CS-01 専門的知識に基づいた看護過程	CS-01-01	看護過程の理解と実際	CS-01-01-01~6
	CS-01-02	対象の身体・心理・社会的ニーズの分析	CS-01-02-01~5
	CS-01-03	対象の目標・アウトカムの設定	CS-01-03-01~2
	CS-01-04	目標・アウトカムに基づく計画立案・実施	CS-01-04-01~4
	CS-01-05	目標・アウトカムに基づく報告・評価・改善	CS-01-05-01~5
	CS-01-06	ケアにおける相互作用	CS-01-06-01~2

科目名:看護過程

# CONTENT

- 看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に向けた連絡調整員会における審議の経過と改訂版の特徴
- 看護学教育モデル・コア・カリキュラム令和6年度改訂版の概要
- コンピテンシー基盤型カリキュラムの科目設計**
  - 各大学のDPIに第1階層「基本的な資質・能力」又は第2階層「資質・能力」を紐づける。
  - 科目に第3・4階層「資質・能力」を紐づける。
  - マイルストーン（各領域実習前時点・卒業時点）での到達度を念頭に、科目を配置してカリキュラムを構築する。

## 留意することは

- 学生の時間は有限である。
- 学生が主体的に学修できる。
- 学生本位の視点で、科目を設計する。
- カリキュラムのスコープとして、756の資質・能力が科目に紐づいていることが必要である。
- カリキュラムのシークエンスとして、科目の配置は、各領域別実習前時点までに修得すべき資質に基づき順序性を考慮して配置する。
- コンピテンシーに対するアウトカム評価は卒業時と各領域実習前時点である。

# コンピテンシーに基づくアウトカムの設定

科目名:看護過程 学修目標:専門的知識に基づく看護過程を理解し、対象の身体・心理・社会的ニーズを分析し対象の目標・アウトカムの設定・計画立案・実施・評価・改善ができる。

第2階層	第3階層		第4階層	卒業時点到達度	各領域実習前 時点到達度
CS-01 専門的知識に基づいた看護過程	CS-01-01	看護過程の理解と 実際	CS-01-01-01	Does	Does
			CS-01-01-02	Does	Does
			CS-01-01-03	Does	Shows How
			CS-01-01-04	Shows How	Knows How
			CS-01-01-05	Shows How	Knows How
			CS-01-01-06	Shows How	Knows How
	CS-01-02	対象の身体・心理・ 社会的ニーズの分 析	CS-01-02-01	Does	Knows How
			CS-01-02-02	Does	Knows How
			CS-01-02-03	Does	Shows How
			CS-01-02-04	Does	Knows How
			CS-01-02-05	Shows How	Knows How
	CS-01-03~5 中略				
	CS-01-06	ケアにおける相互 作用	CS-01-06-01	Shows How	Knows How
			CS-01-06-02	Shows How	Knows How

第3 階層		第4 階層		卒業時点	各領域実習前時点 <sup>注釈1)</sup>
CS-01-01	看護過程の理解と実践	CS-01-01-01	看護ケアにかかわるプロセス、問題解決の思考プロセスを理解し、総合的に実践できる。	Does	Does
		CS-01-01-02	看護で用いる思考プロセスであるクリティカルシンキング、臨床推論、看護過程(アセスメント、分析、計画、実施、評価)等を説明できる。	Does	Does
		CS-01-01-03	看護ケアの目標・アウトカム・アウトカム指標・計画立案・実施・評価をするプロセスを理解し、実践できる。	Does	Shows How
		CS-01-01-04	看護ケア提供時に、説明を行う責任と判断および実施した行為とその結果についての責任を果たすことができる。	Shows How	Knows How
		CS-01-01-05	対象の自己管理の状況等から健康課題をアセスメントし、セルフケア管理を促進するための看護活動を説明できる。	Shows How	Knows How
		CS-01-01-06	対象の身体・心理・社会的ならびに生活上の課題に対して根拠に基づいた個別的な看護実践を説明できる。	Shows How	Knows How
CS-01-05	目標・アウトカムに基づく報告・評価・改善	CS-01-05-01	実施した看護計画や看護目標を個別的な状態に応じた看護判断に基づき、患者アウトカムと看護アウトカムで評価、改善策を提示、修正できる。	Shows How	Knows How
		CS-01-05-02	実施した看護計画に対する人々の反応や状態の変化を適切な相手に報告・連絡・相談できる。	Does	Knows How
		CS-01-05-03	看護学の視点に基づく情報収集から看護計画の評価までの一連、看護の経過を主観的情報・客観的情報・アセスメント・プランとして、適切に記載できる。	Does	Shows How
		CS-01-05-04	Personal Health Record (PHR)、Electronic Health Record (EHR)等の健康医療データの特徴と重要性和社会的な位置づけを理解し、適切に記録、連携、利活用、管理できる。	Shows How	Knows How
		CS-01-05-05	継続看護を目的とした看護要約(サマリー)や過去の経過をまとめた看護要約を作成できる。	Shows How	Knows How
CS-01-06	ケアにおける相互作用	CS-01-06-01	看護実践の全段階において、思いやり、共感、尊重等共感的な関係構築に基づき、対象の意思を尊重、倫理と人権の原則を適用できる。	Shows How	Knows How
		CS-01-06-02	看護実践の全段階において、対象者の多様性を理解し、対象の経験や価値観を尊重した意思決定支援を実践できる。	Shows How	Knows How

# 既存の科目を活用して科目を構成する

Appendix p5

- 従来の学修目標1・2・3・4に対して、第4階層の資質・能力との対応を確認した。
- 「B看護実習」科目の学修目標から、資質能力の対応が明示され、DPとの関係が示された。

DP	【B看護実習 科目の学修目標】 ( )グループプリント数値	重みづけ
DP1	学修目標1:対象の身体・生活機能・精神的・社会的な情報収集を通して、身体状態・対象のニーズをアセスメントできる。 【対応する資質・能力】 GE-02-01-01~02(17.8)/GE-02-02-01~05(0.4)	18 %
DP2	学修目標2:フィジカルアセスメントおよび日常生活援助技術の目的・種類・方法・根拠・観察項目を説明し、安全安楽な実施、実施後の目的に応じた評価・報告ができる。 【対応する資質・能力】 CS-01-02-01~05(6.0)/CS-04-01-01~02(0.1) /CS-04-02-01~02(0.4)/CS-04-03-01~02(1.5) /CS-04-04-01~03(1.0)/CS-04-05-01(0.3) /CS-04-06-01(0.1)/CS-04-07-01(1.2)/CS-04-08-01~04(0.0) PS-06-01-01~02(0.3)/PS-06-02-01(0.0)/PS-06-03-01(0.0) /PS-06-04-01(0.0)/PS-06-05-01(0.0)/PS-06-06-01(0.0)	11 %

DP	【B看護実習 科目の学修目標】	重みづけ
DP3	<p>学修目標3:看護専門職としての責務を自覚し、倫理的かつ責任ある行動ができる。</p> <p>【対応する資質・能力】  IP-02-01-01(1.5)/IP-02-02-01～02(8.7)  /IP-02-03-01～04(7.7)</p>	24%
DP4	<p>学修目標4:看護の役割と実践を結びつけるために既習学習や学習資源を活用し、意欲的・自律的・専門職としての取り組みおよび自己評価(振り返り)ができる。</p> <p>【対応する資質・能力】  PR-04-01-02(5.8)/PR-04-02-02(3.2)  /PR-05-01-01～02(7.2)  LL-02-01-01～02(19.3)/LL-02-02-01～03(3.3)  /LL-02-03-01(0.4)</p>	47%
DP5	本科目では設定しない。	0%

- B看護実習科目は「看護実践を通して、学習者や専門職としての価値・態度となる生涯学習能力とプロフェッショナリズムを学ぶ」ことを主要な学修成果としている。
- そのため、学修目標4(DP4)、「PR:プロフェッショナリズム」「LL:生涯学習能力」に最も重みづけがある設計となった。

# 要約

- 第2階層の学修目標を手掛かりに、すべての第3・4階層の資質・能力を確認し、包含する科目を設定して、各科目と第4階層の資質・能力との関係を明らかにする。
- カリキュラムのスコープ(教育課程を編成するとき、どういった教育内容を選択するのかという学習の範囲あるいは領域)とシーケンス(カリキュラム編成時の順序性)によりCPを確定して、カリキュラムを編成する。
- 各科目と当該科目に包含される資質・能力を明示し、第3・4階層の資質・能力を明示できれば、第2階層の資質・能力、第1階層の基本的な資質・能力に連動するため、当該科目のDPとの関係性が明示される。
- コンピテンシー基盤型カリキュラムにおいて、既存の科目を活用して科目設計をする方法もある。既存科目の学修目標に対して、第4階層の資質・能力を対応させながら、各学修目標に包含される資質・能力を選定する。

## いずれの方法にしても重要なことは

- 各科目に包含される資質・能力が明示され、第4階層の資質・能力(756)がすべて科目に連動していることである。
- DPに対応する第1階層の基本的な資質・能力あるいは第2階層の資質・能力が明示され、DPに対応する科目が第3・4階層の資質能力の各科目への対応によって、コンピテンシーを基盤としたカリキュラムとしての骨格ができたといえる。

ご静聴ありがとうございました。

